

花巻で暮らそうプロジェクト

定住促進事業

6,139万円

子育て世帯の住宅取得、空き家バンクの活用、若者世代などの空き家活用、移住者の住宅取得などを支援しました。一部の奨励金などについては、子育て世帯に対して子ども1人当たり10万円を加算する、制度の拡充を行いました。



J R花巻駅東西自由通路等整備事業

1億1,520万円

J R花巻駅東西自由通路整備の基本設計を終え、実施設計に着手したほか、西口駅前広場整備の基本設計が完了するなど、着実に事業を進めました。



事業名	決算額	内容
結婚新生活等支援事業	1,664万円	婚活イベントのモデル事業を開催したほか、結婚に伴う新生活のスタートアップに必要な費用を支援しました(夫婦いずれも29歳以下の場合は10万円を加算する、制度の拡充を行いました)
産業団地整備 ※特別会計	7億5,129万円	花南産業団地の整備を進め、中央部(B工区)の分譲を開始しました。南側(C工区)は用地買収および実施設計に着手し、北側(A工区)は用地測量や埋蔵文化財試掘調査などを行いました
U I Jターン者就業奨励金、移住支援金	2,200万円	県外から転入して、市内事業所に一定期間就業した人などに対し、奨励金や支援金を交付しました
新規就農者支援事業補助金、農業研修支援事業補助金	335万円	新たに農業を始める人を対象に、農業機械購入の初期費用や農地の賃借料、研修の受講費用を支援しました
商店街賑わいづくり事業	5,009万円	商店街組合などが実施するイベントへの補助、中心市街地で空き店舗を活用して新たに創業する事業者への支援、「日本ワインフェスティバル花巻大迫」の開催費用の一部負担などを行いました

市民の生活を守り 魅力あふれる強く優しい まちづくり

公共交通確保対策事業 2億6,321万円

令和6年3月で廃線となったバス路線「土沢線」の代替交通としてコミュニティバスを運行しました。また、湯口、湯本、宮野目、矢沢地区における交通空白地域を縮減するため、予約乗合交通の運行を開始しました。



有害鳥獣被害対策事業 7,510万円

(うち前年度からの繰越:354万円)

多発する市街地などでのクマの出没に迅速に対応するため、クマの出没箇所などにA Iカメラを設置し、警戒態勢を強化しました。また、未利用果樹の伐採に対する補助制度を創設するなど、人里へのクマの侵入を防ぐ取り組みを進めました。

事業名	決算額	内容
タクシー等助成券給付、通院時交通費助成	2,118万円	交通手段を持たない高齢者や障がい者の買い物や通院などを支援するためタクシー等助成券を給付しました。また、通院時のタクシー利用に対する助成金の限度額を拡充しました
带状疱疹予防接種費補助	6,013万円	50歳以上の市民を対象に、带状疱疹の予防接種に対する補助制度を創設しました
生活道路・橋梁の維持整備	34億8,971万円	安全で快適に通行できる道路網を構築するための整備や維持修繕、除排雪などを行いました
図書館整備事業	2,436万円	新花巻図書館整備基本計画の策定に当たり、建設候補地の比較調査を専門業者に委託したほか、無作為抽出による市民会議を開催しました

令和6年度 はなまきの決算

子どもたちの未来と あらゆる世代の命と暮らしを守る

本市の令和6年度の決算が市議会9月定例会で承認されました。令和6年度に一般会計に入ったお金(歳入)は630億1,324万円。この中から使ったお金(歳出)は606億898万円で、差し引き額(形式収支)は24億426万円の黒字です。そこから翌年度に実施する事業に使うために繰り越すお金を差し引いた額(実質収支)も18億1,382万円の黒字になりました。皆さんに納めていただいた税金がどのように使われたか、市の財政がどのような状況なのかなどをお知らせします。

子ども・子育て応援プロジェクト

医療費助成事業

2億8,330万円

市内の乳幼児、小中学生、高校生、妊産婦などの医療費助成を行い、医療機関窓口での支払い負担を軽減しました。



※市では、市内の乳幼児、小中学生、高校生、妊産婦の医療費助成について所得制限を撤廃しており、市内の全ての子どもや妊産婦などが医療費助成の対象となっています

学童クラブ施設整備事業、小・中学校施設維持事業

10億5,652万円

(うち前年度からの繰越:2億8,497万円)

学童クラブの施設整備や、小・中学校の改修工事などを行いました。桜台小学校の長寿命化工事については、既存校舎を使用しながら令和4年9月から内装改修やエレベーターの増築などを行い、本年3月に完成しました。



事業名	決算額	内容
副食費負担軽減事業	3,402万円	市内保育施設などに通う第2子以降の副食費について、保護者の所得にかかわらず月額4,800円を上限に支援したほか、第1子についても食材費の価格高騰分を市が負担して、副食費を据え置き、保護者の負担を軽減しました ※市内小中学校の給食費についても食材の価格高騰分を市が負担して、学校給食費を据え置き、保護者の負担を軽減しました
周産期医療確保対策事業	125万円	市内産科医療機関で勤務する産科医師などに対して、家賃や帰郷時の交通費を補助しました
奨学金活用人材確保支援事業、はなまき夢応援奨学金事業	1,273万円	卒業後に市内に居住すると返還が免除される「はなまき夢応援奨学金」について、貸与月額上限額を2万円から3万円に増額しました。また、市の貸付型奨学金を返還している人を対象に、返還月額の半額を補助する「ふるさと奨学生定着事業補助金」について、市外の大学などを卒業した人も新たに補助対象にするなど、大学などへの進学を後押ししました